

## 試験研究成果普及情報

部門	果樹	対象	普及
課題名：ハウスビワの低樹高・高収量栽培技術			
[要約] ビワの施設栽培用に開発した低樹高栽培は、既存のパイプハウスを用いた省力的な二段盃状形仕立てで、高収量を得ることができる技術である。			
キーワード(専門区分)栽培 (研究対象)果樹類-ビワ (フリーキーワード)施設栽培、二段盃状形、低樹高			
実施機関名(主 査) 農業総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹研究室 (協力機関) (実施期間) 昭和58年度～平成13年度			

### [目的及び背景]

千葉県ハウスのビワの施設は規模の大きい鉄骨ハウスがほとんどで、施設への過剰投資が採算性を低下させている。そこで、安価な既存のパイプハウスを用いることによって、省力化と高収量を両立させた低樹高栽培法を確立する。

### [成果内容]

1. 定植後、2年目から低樹高化のための枝の誘引を始める。低樹高栽培の樹形は二段盃状形とし、それぞれの段に主枝を3～4本設け、一段目と二段目の間を1m前後あける。主枝候補の誘引角度は地面に対して60°とし、その後数年かけて徐々に水平近くにまで誘引する。  
定植8年目以降は誘引・せん定によって、樹高を250cm、永久樹の1樹当たりの葉数を15,000枚に維持する。定植後6年目以降、間伐樹を徐々に縮伐し、80%の樹冠占有率を確保する(表1)。
2. 10a当たりの5年間の平均収量は葉果比10では2,041kg程度、葉果比15では1,590kgで、露地栽培の2～3倍の高収量が得られた。葉果比10の平均果重は69g、2L以上の割合は64%、また葉果比15ではそれぞれ72g、74%程度であった(表2)。
3. 果実の糖度及び酸含量は、葉果比による差はみられなかった。低樹高栽培の「富房」の糖度は11～12%、酸含量は約0.2であった(表2)。
4. 「富房」の収穫始めは5月4日、平均収穫日は5月17日であった(表2)。

### [留意事項]

1. ハウス専用品種の「富房」を用いる。
2. 1年生苗を大きめのポットに移して養成した大苗を用いる。
3. 植え付け後は土壌改良剤として樹冠の回りにバーク堆肥を10～20kg/樹/年すき込む。
4. 整枝・せん定は収穫後の6月に大枝を間引き、9月に徒長枝を整理する。

### [普及対象地域]

県内のビワ栽培地域

### [行政上の措置]

### [普及状況]

[成果の概要]

表 1 永久樹の1樹当たりの生育量

調査年	調査月	設定葉果比	平均幹周	樹冠占有率	樹高	枝数	葉数	花房数	着花房率	着果数
			cm	%	m				%	
H4.	11	—	12	12	2.2	80	1200	60	82	120
H5.	11	—	19	21	2.1	190	2500	70	37	240
H6.	11	—	26	29	2.4	410	6000	290	71	300
H7.	11	—	32	48	2.1	480	6200	360	95	600
H8.	11	—	38	78	2.4	420	7700	240	58	670
H9.	11	10	44	91	2.5	550	10800	420	76	920
		15	44	90	2.5	560	10400	430	77	650
H10.	11	10	50	81	2.1	910	13400	490	54	1330
		15	51	80	2.2	900	14400	400	45	960
H11.	11	10	54	84	2.6	1080	15900	600	55	1570
		15	55	83	2.6	1050	14800	610	58	1000
H12.	11	10	61	83	2.7	1010	17200	390	39	970
		15	62	82	2.6	1160	18200	500	43	1100
H13.	11	10	62	82	2.5	860	13400	480	57	1350
		15	67	81	2.6	1050	13700	540	51	950

樹冠専有率：(全供試樹の樹冠専有面積/施設面積) × 100

着花房率：花房数/枝数(頂芽数)

表 2 施設栽培樹の収量及び品質

調査年	調査月	設定葉果比	平均果重	M果以上割合	2L果以上割合	収量(10a)	糖度	酸含量	収穫始	平均収穫日
			g	%	%	kg	%	g	月・日	月・日
H5.	5	—	69	97	66	290	11.4	0.28	—	5.10
H6.	5	—	64	94	48	520	13.0	0.20	5.12	5.18
H7.	5	—	69	99	68	710	11.9	0.15	4.28	5.9
H8.	5	—	74	100	83	1540	11.6	0.18	5.9	5.28
H9.	5	—	75	99	82	1770	12.8	0.22	4.15	4.27
H10.	5	10	69	97	63	2270	10.7	0.13	4.21	5.10
		15	73	98	74	1690	10.6	0.14	4.21	5.10
H11.	5	10	65	91	53	1960	11.0	0.20	5.10	5.23
		15	70	94	68	1480	11.3	0.18	5.10	5.21
H12.	5	10	64	93	50	2200	11.6	0.21	5.8	5.30
		15	70	98	73	1780	11.8	0.18	5.10	5.28
H13.	5	10	73	99	82	1820	11.6	0.27	5.14	5.22
		15	69	97	66	1540	11.8	0.25	5.14	5.22
H14.	5	10	72	97	70	1960	10.8	0.26	4.30	5.15
		15	77	99	88	1460	10.9	0.24	4.30	5.11

糖濃度は屈折糖度計で測定、酸濃度は果汁を0.1規定NaOHで中和滴定した値をリンゴ酸量(g/100<果汁)に換算した値。

[発表及び関連文献]

平成13、14年度試験成績書(農総研・暖地園研・果樹研究室)

平成14年度果樹試験研究成果発表会